

比 治 山 大 学
比治山大学短期大学部

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		比治山大学			設置者名	学校法人 比治山学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成24年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
現代文化 学部	言語文化学科	120人	中一種免(国語)	平成7年度	111人	8人	3人	1人	
			高一種免(国語)	平成7年度			3人		
			中一種免(英語)	平成7年度			4人		
			高一種免(英語)	平成7年度			5人		
	マスコミュニケーション学科	60人	高一種免(情報)	平成21年度	43人	4人	4人	0人	
子ども発達教育 学科	70人	幼一種免	平成21年度	69人	66人	35人	27人		
		小一種免	平成21年度			49人			
入学定員合計		250人	合計		223人	78人	103人	28人	
大学名		比治山大学(大学院)			設置者名	学校法人 比治山学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成24年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
現代文化 研究科	現代文化専攻	9人	中専免(国語)	平成10年度	3人	0人	0人	0人	
			高専免(国語)	平成10年度			0人		
			中専免(英語)	平成10年度			0人		
			高専免(英語)	平成10年度			0人		
入学定員合計		9人	合計		3人	0人	0人	0人	
大学名		比治山大学(専攻科)			設置者名	学校法人 比治山学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成24年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
子ども発達 教育専攻科	子ども発達教育 専攻	10人	小専免	平成25年度	—	—	—	—	
入学定員合計		10人	合計		—	—	—	—	

大学名		比治山大学短期大学部		設置者名	学校法人 比治山学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成24年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
	幼児教育科	100人	幼二種免	昭和45年度	120人	112人	112人	28人
	総合生活デザイン学科	170人	中二種免(家庭)	昭和43年度	108人	21人	2人	1人
			栄教二種免	平成17年度			19人	
	美術科	70人	中二種免(美術)	昭和43年度	48人	7人	7人	1人
入学定員合計		340人	合計		276人	140人	140人	30人
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成25年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>							

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成25年7月25日（木）

実地視察大学：比治山大学・比治山大学短期大学部

実地視察委員：天笠茂委員，八尾坂修委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員の配置等については，おおむね問題無く実施されている。
- 教育課程について，「2.」で指摘するように，教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準の観点から是正すべき点が確認されたため，その点については，速やかに是正すること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教員養成に対する理念・構想が明確化されており，それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織，教育課程や教員組織が整備されていることが確認された。今後の一層の充実を期待する。
- 授業内容及び授業方法等に関するファカルティ・ディベロップメント等を組織的に推進されていることが確認されたが，今後もそれが形骸化しないように工夫し，充実した取組を推進いただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目），履修方法及びシラバスの状況

- 短期大学部において，「教職に関する科目」の専任教員が，幼稚園の教職課程と，中学校の教職課程において，同一の教員が1名重複して充てられているように見受けられた。教職課程認定基準上，両方の課程の専任教員とみなすことはできないため，どちらかの課程に専任教員を1名配置し，教職課程認定基準を満たすように速やかに是正すること。
- 「教職に関する科目」について，教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か，シラバスからは判断できない授業科目があるため，法令で扱うこととしている内容は必ず扱うようにすること。なお，シラバスの記載内容及び記載方針を定め，法令に定める「含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにすること。

3. 教育実習の取組状況

- 幼稚園の教職課程の教育実習の事前・実習中・事後において、きめ細やかな指導が行われており、学生も主体的に準備を行っているように見受けられた。また、それらを可能とする環境も充実していることが確認された。今後、他の学校種の教職課程においても同様の取組がなされることを期待する。
- 大学が教育委員会や実習校と連携し、教育実習先の確保・実習中の巡回指導などの教育実習に関わる指導体制を強化するなど、引き続き教育実習の指導体制の充実に努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職を志す学生については、1年次から教職センターに登録させ、教職塾と称して、授業外においても補完指導を行うなど、個に応じたきめ細やかな指導が行われていることが確認された。
- 教職指導は、就職指導のみならず、学生が教職について理解を深め、教職への適性について考察するとともに、各科目の履修等を通して、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成していくことができるように、大学が計画的・組織的に指導することが必要である。引き続き、個々の学生の学修成果を適切に把握するとともに、より一層充実した教職指導となるように努めていただきたい。
- 教職実践演習の在り方について研究を行うためのワーキンググループを設置しているとのことであったが、昨年度短期大学部で実施された教職実践演習の効果と課題を十分に検討し、今年度以降に大学で実施される教職実践演習にも生かしていただきたい。また、引き続き、実施した授業の効果と課題の検討を進め、モデルとなるような授業カリキュラムの開発を期待する。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 学校現場体験や学校支援ボランティア活動を大学として組織的に推進しており、報告書を提出させて個々の学生の活動状況を把握しているなど、充実した取組がなされているように見受けられた。
- 教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、今後、教育委員会や学校とより一層の連携・協力体制を強化していただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 理科の実験室などについて、施設として備えられているだけでなく、日々活用されている様子が感じられた。また、幼稚園の教職課程においては、実際の幼稚園の教室を模した「バーチャル保育室」や学習アドバイザー、絵本などの教材を備えた「自習室」が整備されており、学生が自主的に活動している様子も確認された。

- 全般的に施設は充実しているように見受けられたが、現在備えている施設をより効果的に活用するための工夫を検討し、より一層の有効活用に努めていただきたい。
- 教職関連図書についても、充実している状況が確認された。教職を志す学生が、教育に関する最新の情報を入手することができるように、引き続き図書環境の充実に努めていただきたい。

7. その他特記事項

- 特になし。